

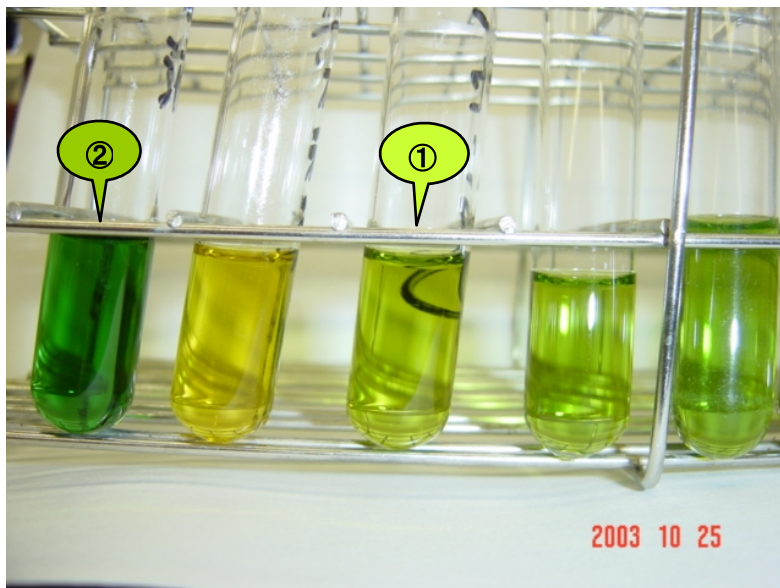
*****生化学検査学実習室*****

人の血液中にはいろいろな成分が存在します。人が病気になると、その成分の量が変化してきます。例えば、血液中の糖分であるグルコースは食事をすると増加します。

しかし、食事をしていないのに血液中にグルコースがたくさんある状態を糖尿病と言います。糖尿病かどうかは血液中のグルコースの量を測ればわかります。その測定には、様々な化学反応が使われています。

比色法では、化学反応によって色をつけてその色の濃さを比べることによって濃度がわかります。初速度法では、化学反応していく速さを測定することによって濃度がわかります。測定する成分によって試薬や反応経路が違うので、何という試薬を用いてどのような反応がおこるのかを実際に行っているのが、生化学検査学（臨床化学）実習室です。

化学反応による成分分析を実際に行うことにより手技上必要な器具の使い方も学びます。



ウレアーゼ・インドフェノール法(比色法の一つ)

写真は血中尿素窒素の反応の色なのだ
ウキッ
尿素窒素の量が少なければ黄緑色っぽい色
(①)になり、量が多ければ緑色が濃く(②)
なるのだ
ウキッ

